

教員と大学院生による夢の競演！

大学院  
スペシャルコンサート

*Special  
Concert*

2023年 3月 11日(土)

15:00 開演 14:30 開場

会場 洗足学園 前田ホール

主催 洗足学園音楽大学・大学院



## 新型コロナウィルス感染症の 感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者の花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

## ご挨拶

本日は大学院スペシャルコンサートにご来場いただきありがとうございます。

大学院主催公演の最後を飾るこのコンサートの魅力は、一流の演奏家である教授陣と同じステージで演奏できるということでしょう。大学院生にとってこの経験は何にも代えがたいものであり、これまでの研鑽の成果を身を持って感じると共に、新たな目標を見つける大きな機会になることと確信しています。

新型コロナウイルスの蔓延が続く中、大学院生たちは、色々な意味で不自由な生活を余儀なくされました。その不自由を乗り越えて一人ひとりが自らの目標に向けて研鑽を続けてくれたこと、そして本日のコンサートを無事に迎えられたことを非常に嬉しく思っています。

彼らには本学大学院で経験したすばらしい音楽の力を信じて、アフターコロナの時代に大きく貢献してくれることを期待しています。

本日お越しの皆様には、大学院生と教授陣による夢の共演を最後までごゆっくりお楽しみいただきたくお願ひ申し上げます。

洗足学園音楽大学 音楽学部長 大学院研究科長  
小嶋 貴文

～ プログラム ～

## 第1部

### 打楽器コース M.フォード／カバサ！

Mark Ford (b.1958) // Cabasa!

### M.バーリット／マグ7 ラプソディ No.1

Michael Burritt (b.1962) // MAG7 Rhapsody No. 1

### 管楽器コース

### F.プーランク(松下 倫士 編曲)／バレエ組曲「牝鹿」より

Francis Poulenc (1899-1963) // Arr. Tomohito Matsushita// Les Biches

ロンド	Rondeau
アダージエット	Adagietto
アンダンティーノ	Andantino
ファイナル	Final

### 弦楽器コース

### 芥川 也寸志／弦楽のための三楽章「トリプティーケ」

Yasushi Akutagawa (1925-89) // Triptyque for String Orchestra

第一楽章	アレグロ	Allegro
第二楽章	ベルスーズ(子守唄)	Berceuse
第三楽章	プレスト	Presto

～ 休憩 ～

## 第2部

### 電子オルガンコース

吉崎 清富／From east to west

Kiyotomi Yoshizaki (b.1940) // From east to west

### 和楽器コース

松尾 祐孝／天空幻想 III ～篠笛、三味線、箏の為に（2023 初演）

Masataka Matsuo (b.1959) // Cosmic Fantasy III for Shinobue, Shamisen and Koto  
(2023 premiere)

### ピアノコース

W.ルトスワフスキ／パガニーニの主題による変奏曲

Witold Lutosławski (1913-94) // Variations on a Theme by Paganini

### C.サン=サーンス(エ.ギロー 編曲)／死の舞踏 Op.40

Camille Saint-Saëns (1835-1921) // Arr. Ernest Guiraud // Danse macabre, Op. 40

### 声楽コース

A.ヴィヴァルディ／グロリア ニ長調 RV.589 より

「わたしたちは主をほめ」

Antonio Vivaldi (1678-1741) // Gloria in D Major, RV 589 'Laudamus te'

G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より

「あたりは静寂に包まれ」

Gaetano Donizetti (1797-1848) // Lucia di Lammermoor 'Regnava nel silenzio'

R.レオンカヴァッロ／歌劇《道化師》より

「なんて炎があの眼差しに！」

Ruggero Leoncavallo (1857-1919) // I Pagliacci 'Qual fiamma avea nel guardo!'



# 打楽器コース

## 曲目

### M.フォード／カバサ！

Mark Ford (b.1958) // Cabasa!

### M.バーリット／MAG 7 ラプソディ No.1

Michael Burritt (b.1962) // MAG7 Rhapsody No. 1

## 出演者

東 廉悟 (院2) 青柳 はる夏 (院2) 近藤 花音 (院1)

吉野 萌 (院1) NG TSZ YAN JASON (院1)

石井 喜久子 (教員) 井手上 達 (教員)

## 曲目解説

### M.フォード／カバサ！

アメリカの打楽器奏者・作曲家のマーク・フォードによる作品で、曲名の通りカバサという楽器による5重奏である。

カバサは元来はひょうたんと植物の実によって造られていた楽器だが、現代では木やプラスチックによる円柱に金属の玉が巻き付けられている物が使用されている。叩く、こする、振る、回す等様々なテクニックが盛り込まれた作品である。

### M.バーリット／MAG 7 ラプソディ No.1

アメリカの打楽器奏者・作曲家のマイケル・バーリットによる作品。

曲名の「MAG7」とは“The Magnificent Seven”からの造語で、曲名の通り7人全員に非常に高度な技術が求められる。曲は冒頭のマリンバのソロによって繰り返し提示される高速な16分音符のモチーフと、それに続いて現れるヘミオラによる5音のモチーフを中心に構成されている。ブルースのようなスケールで始まり、ロックやミニマル、アフリカ音楽等の要素がさまざまなテクスチャーによって表現され、目まぐるしい展開が続いたのち全員が5音によるフレーズを奏し曲を締めくくる。

東 廉悟 (院2)



# 管楽器コース

## 曲目

F.プーランク(松下 倫士 編曲)／バレエ組曲「牝鹿」より

Francis Poulenc (1889-1963) // Arr. Tomohito Matsushita // Les Biches

ロンド	Rondeau
アダージエット	Adagietto
アンダンティーノ	Andantino
ファイナル	Final

## 出演者

Conductor	松下 倫士 (教員)	
Flute 1st	石井 優菜 (院2)	李 治嶠 (院1)
Flute 2nd	間木平 美和 (院2)	袁 玥 (院1)
Piccolo Flute	村松 紀親 (院2)	渡部 亨 (教員)
Oboe 1st	河村 真歩 (院2)	池谷 胡桃♪
Oboe 2nd	佐藤 千尋 (院1)	
Clarinet 1st	元村 理乃 (院2)	
Clarinet 2nd	大浦 紗子 (教員)	
Alto Saxophone	岩本 伸一 (教員)	田中 拓也(教員)
Tenor Saxophone	二宮 和弘 (教員)	
Baritone Saxophone	清 達哉 (院2)	
Trumpet 1st	佐藤 心 (院1)	速水 力 (院1)
Trumpet 2nd	濱欠 直毅 (院1)	古田 俊博 (教員)
Trumpet 3rd	長田 彩希 (院1)	
Euphonium	丸山 奈央 (院2)	
Percussion	東 廉悟 (院2) ♃	
Piano	齋藤 光 ♭	青柳 はる夏 (院2) ♃

♪演奏補助要員 ♫準演奏補助要員 ♄賛助



# 管楽器コース

## 曲目解説

### F. プーランク(松下 倫士 編曲)／バレエ組曲「牝鹿」

フランス・プーランクは1899年にフランスのパリに生まれた。同時代の作曲家は現代音楽的な試みをしていた時代、プーランクはフランスらしい知性に溢れた、パリジャンらしい軽快で魅力的な音楽をこの世に生み出し、フランスの6人組としても活躍した。

「牝鹿」はロシアで精力的に活動していたバレエ団バレエ・リュスのプロデューサーの依頼で1923年に作曲され、プーランクにとって初めて手がけたオーケストラ作品である。叙情的で幻想的なロマンティック・バレエ「La Sylphide」の現代版として依頼されたそうだが、本作品「牝鹿」の舞台は青いソファが1つ置かれただけの白く塗られた部屋、時期は暑い夏の午後、3人の若い男が16人の可愛い女の子達と無邪気に戯れているという他、明確なあらすじはないが、軽快で瑞々しい音楽はチャイコフスキーやストラヴィンスキイの影響を受けたとプーランクが語っている。1939年、プーランク自身が数曲を抜粋、編曲をし演奏会用組曲とした。

本日は演奏会組曲より第1曲「ロンド」、第2曲「アダージェット」、第4曲「アンダンティーノ」、第5曲「ファイナル」を大学院管楽器コースのために編曲し演奏する。

フルート 石井 優菜 (院2)



# 弦楽器コース

## 曲目

### 芥川 也寸志／弦楽のための三楽章「トリプティーケ」

Yasushi Akutagawa (1925-89) // Triptyque for String Orchestra

第一楽章	アレグロ	Allegro
第二楽章	ベルスーズ (子守唄)	Berceuse
第三楽章	プレスト	Presto

## 出演者

Violin

宍戸 育実 (院2)  
賴近 友莉奈 (学4)<sup>♪</sup>  
沼田 園子 (教員)  
加藤 可奈子 (院2)  
XU LULU (院2)  
羽川 真介 (教員)  
當仲 紘理 (教員)

Viola

Cello

Contrabass

筱崎 愛 (院1)  
早川 萌音 (学4)<sup>♪</sup>  
松本 志絃音<sup>♪</sup>  
工藤 海青 (院2)  
YU XIANGZHOU (院2)  
原 美月<sup>♪</sup>  
安田 廉<sup>♪</sup>

LI XIANGHAO (院1)  
勝部 小夏 (学3)<sup>♪</sup>  
安藤 裕子 (教員)  
蜷原 一智 (院1)  
大友 美侑<sup>♪</sup>

♪演奏補助要員 ♪賛助

## 曲目解説

### 芥川 也寸志／弦楽のための三楽章「トリプティーケ」

芥川也寸志(1925-89)は日本を代表する作曲家、指揮者であるが、その父に作家の芥川龍之介、兄に俳優の芥川比呂志を持つことでも有名である。幼少よりストラヴィンスキーの音楽に傾倒し、16歳で音楽家を志すと、その後東京音楽学校(現在の東京藝術大学音楽学部)の作曲科に進学し、そこで恩師の伊福部昭から多大な影響を受けた。25歳の時に作曲した『交響管弦楽のための音楽』がNHKの管弦楽曲懸賞の特賞となり注目され、その後も管弦楽曲を中心に、映画音楽や放送音楽、童謡など、幅広い分野で数多く作品を残す。今回演奏する『弦楽のための三楽章～トリプティーケ～』も彼の主要な作品の一つであり、NHK交響楽団の常任指揮者であったクルト・ヴェスの依頼を受け、1953年に作曲された。「トリプティーケ」とは三幅画のことで、その名の通り3つの楽章がそれぞれ独立しながらも、構成や楽想の共通性が曲全体に統一性をもたらしている。また彼特有の明快なリズムと旋律で彩られており、親しみ易くも味わい深い作品となっている。

ヴァイオリン 宍戸 育実 (院2)

# 電子オルガンコース

## 曲目

吉崎 清富／From east to west  
Kiyotomi Yoshizaki (b.1940) // From east to west

## 出演者

WEI JIACHEN (院2)  
LI BINGXI (院2)  
赤塚 博美 (教員)

## 曲目解説

### 吉崎 清富／From east to west

1989年6月に作られたこの作品は、日本人の自然への心情、芸術観、人生観を日本の庭園の中に見い出そうとしたものである。日本の歴史と文化を凝縮したこの庭園には、他に代替できない芸術美が表現されている。代表的樹木である松竹梅、桜、紅葉や、池、石畳等を、HX-1の中の琴、三味線、尺八、打楽器に限定して表現し、作曲している。全体は五つの部分から構成されているが、抽象的でDeformeされた形式となっている。シリアルな形を一つ一つ破壊していくのは、結局のところ、現在の歴史・文化よりも、過去のそれへのアーカイズムかも知れない。民族の個性を日本の遺産について考えながら、この作品に取り組んだ。

('89 全日本電子楽器教育研究会 委嘱作品の本人解説)



# 和楽器コース

## 曲目

松尾 祐孝／天空幻想 III ~ 篠笛、三味線、箏の為に (2023 初演)

Masataka Matsuo (b.1959) // Cosmic Fantasy III for Shinobue, Shamisen and Koto (2023 premiere)

## 出演者

篠笛 馬 新凱 (院2)  
三味線 郝 翼田 (院1)  
箏 吉原 左知子 (教員)

作曲 松尾 祐孝 (教員)

## 曲目解説

松尾 祐孝／天空幻想 III ~ 篠笛、三味線、箏の為に

大学院和楽器専攻では、近年の大学院スペシャルコンサートにおいて、作曲家書き下ろし作品の新作初演を、特別なプロジェクトとして展開している。今年度は、篠笛専攻学生1名と三味線専攻学生1名と箏教員1名が協演して初演できる三重奏作品を用意した。二年前の同プロジェクト作品《天空幻想II》～篠笛と箏の為に～に三味線を加えた新ヴァージョンと言うべき作品が誕生した。日本の伝統音楽のルーツが中国の西域やモンゴルを経て伝來したことに想いを馳せつつ、青空を見上げるようなイメージを脳裏に描きながら、筆を進めた。教員の助演を得た若い二人の留学生(両名とも中国出身)のフレッシュな演奏と邦楽器のサウンドの魅力を、存分にお楽しみください。

松尾 祐孝 (教員 / 作曲者)



# ピアノコース

## 曲目

2台4手

### W.ルトスワフスキ／パガニーニの主題による変奏曲

Witold Lutosławski (1913-94) // Variations on a Theme by Paganini

第1ピアノ 見原 さやか (院2)

第2ピアノ 江崎 昌子 (教員)

2台8手

### C.サン=サーンス(E.ギロー 編曲)／死の舞踏 Op.40

Camille Saint-Saëns (1835-1921) // Arr. Ernest Guiraud // Danse macabre, Op. 40

第1ピアノ プリモ 寺島 梨湖 (院1)

セカンド 鳥羽瀬 宗一郎 (教員)

第2ピアノ プリモ 江崎 昌子 (教員)

セカンド 井坂 美月 (院2)

## 曲目解説

### W.ルトスワフスキ／パガニーニの主題による変奏曲

20世紀ポーランドを代表する作曲家、ルトスワフスキの作曲した2台のピアノのための小品。パガニーニの「カプリース第24番」のテーマに基づいて作られており、12の変奏曲とコーダから成っている。テーマ自体躍動的なものであるが、スリリングなスピード感と多彩な表情が十分に盛り込まれている作品である。途中、ジャズ風のリズムを感じさせるなど、現代的で前衛的な作品でもある。2台ピアノの作品の中では最も人気のある作品と言えるであろう。

### C.サン=サーンス／死の舞踏 Op.40

もともとは、アンリ・カザリスの詩「死の舞踏」に曲をつけた歌曲として1872年に作曲されたが、のちに交響詩としてオーケストラ楽曲化された。本日はピアノ2台8手編曲版で演奏する。冒頭、夜の12時を告げる時計の音が12回弾かれると死神が現れ、不協和音と共に不気味な死の舞踏会が繰り広げられる。最後に夜明けを告げる雄鶏の鳴き声が描写され、ガイコツたちが眠りにつくかのように、静かに曲は締めくくられる。

ジグ、ジグ、ジグ、死神が拍子を取っている 踵で墓石を打ち鳴らしながら  
真夜中に死神はダンスの調べを演奏する  
ジグ、ジグ、ザグと彼のヴァイオリンで 冬の風は吹き荒び、夜は暗澹としている  
ボダイジュから呻き声が漏れ出し、蒼白い骸骨たちは闇を横切り、  
屍衣を纏ったまま走り跳び上がる  
ジグ、ジグ、ジグ、めいめいが跳ね回り、踊る者たちの骨がカチカチいう音が聞こえる  
おい、ちょっと、と合図して突然彼らは輪舞を止める  
そして押し合い圧し合い逃げて行く、一番鶏が鳴いたので。

鳥羽瀬 宗一郎 (教員)



# 声楽コース

## 曲目

A.ヴィヴァルディ／グロリア ニ長調 RV.589 より  
**「わたしたちは主をほめ」**

Antonio Vivardi (1678-1741) // Gloria in D Major, RV 589 ‘Laudamus te’

ソプラノ1 木内 育美 (院2)      ソプラノ2 上荒磯 佐和 (院2)

G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より  
**「あたりは静寂に包まれ」**

Gaetano. Donizetti(1797-1848) // Lucia di Lammermoor ‘Regnava nel silenzio’

ソプラノ 木内 育美 (院2)

R.レオンカヴァッロ／歌劇《道化師》より  
**「なんて炎があの眼差しに！」**

Ruggero Leoncavallo(1857-1919) // I Pagliacci ‘Qual fiamma avea nel guardo!’

ソプラノ 上荒磯 佐和 (院2)

ピアノ 服部 容子 (教員)



# 声楽コース

## 曲目解説

### A.ヴィヴァルディ／グロリア ニ長調 RV.589 より 「わたしたちは主をほめ」

アントニオ・ヴィヴァルディ(Antonio Vivaldi 1678-1741)は、ヴェネツィア共和国で生まれ、バロック音楽後期の著名な作曲家の1人、またヴァイオリニスト、ピエタ院の音楽教師、ローマ・カトリックの司祭でもあった。彼の宗教作品の中でも初期に属する「グロリア ニ長調 RV.589」は、ラテン語のミサ通常文のうち第2部「グロリア」を12の部分に分けたうちの第3曲目である。ヴァイオリンのリトルネッロの主題に続いて、軽快なソプラノ二重唱が演奏される。二重奏が3度和声で平行に動いたり、不協和音を掛留として解決を繰り返したりしながら神への賛美を喜々と歌う。

木内 育美 (院2)

### G.ドニゼッティ／歌劇《ランメルモールのルチア》より 「あたりは静寂に包まれ」

ガエターノ・ドニゼッティ(Gaetano Donizetti 1797-1848)は50年の生涯に計78曲のオペラを作曲した。特に彼が40歳前後、つまり1830年代後半から1840年代初めにかけての時期は創作意欲が旺盛で、《ランメルモールのルチア Lucia di Lammermoor》は1835年に書かれたものである。

シーンは夜の泉のある庭園。恋人のエドガルドと密会するためにルチアが侍女のアリーサと共に城から出て来る。ルチアはアリーサに、恋人に刺され、泉に沈められた女の幽霊を見た、と語る。アリーサは不吉な恋はやめるように忠告するが、ルチアはエドガルドへの愛を歌い上げる。

木内 育美 (院2)

### R.レオンカヴァッロ／歌劇《道化師》より 「なんて炎があの眼差しに！」

ルッジェーロ・レオンカヴァッロ(Ruggero Leoncavallo 1857-1919)によって書かれた歌劇「道化師 I Pagliacci」は、ピエトロ・マスカーニ(Pietro Mascagni 1863-1945)が書いた歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ Cavalleria Rusticana」と並んで、ヴェリズモ・オペラの代表作とされているオペラである。ヴェリズモとは「現実主義」と訳され、19世紀後半に起こったイタリア文学での新しい動きを指す。そのリアリズム運動の影響を受けて、この時代のイタリアでは人々の日常生活を描いたオペラが誕生した。また、ヴェリズモ・オペラは人間の残酷な激しい感情を描いていることも特徴である。

舞台は9世紀後半、イタリアの南部カラブリア地方。カニオを座長とする旅芝居一座が村にやってきた。座長カニオの妻で、一座の女優のネッダは嫉妬深い夫に嫌気がさしている。今回演奏する「なんて炎があの眼差しに！(鳥の歌)」は、空飛ぶ小鳥を羨ましく思い、自由への憧れを空飛ぶ鳥に託して歌いあげる曲である。

上荒磯 佐和 (院2)